

読んでみよう 解いてみよう  
**さん太のワークシート**

笠岡市・笠岡諸島の真鍋島で5月、伝統行事の「走り神輿」が行われました。記事を読んで質問に答えましょう。

てい がく ねん  
**低学年も  
 チャレンジ!**

**Q1**

写真は神輿が駆け抜ける様子をとらえています。担いでいる人が何と言っているか、せりふを考えてみましょう。

**Q2**

神輿の担ぎ手は、氣勢を上げながら海岸沿いなどを駆け抜けました。「氣勢」の言葉の意味を調べて、書いてみよう。

**Q3**

走り神輿は江戸時代から続いているとされています。何を願って始めましたか。記事を参考に二つ答えよう。

笠岡市・笠岡諸島の真鍋島で4日、伝統行事「走り神輿」(市重要無形民俗文化財)のクライマックス「本宮」があり、締め込み姿の男衆が神輿を担ぎ島内を勇壮に駆け抜けた。八幡神社で神事が行われた後、近くの港から漁船で中心部・本浦地区に移動。重さ約100kgの神輿3基を8人一組で持ち上げ、「ウオー」と氣勢を上げながら海岸沿いや民家がひしめく路地を疾走した。沿道には多くの見物客が詰めかけ、盛んに拍手や歓声を送り、カメラに収めた。毎年訪れる倉敷市連島中央、下須賀誠さん(75)は「スピードもさることながら、担ぎ手の必死な形相に圧倒される」と話していた。走り神輿は江戸時代の元禄年間(1688〜1704年)に海の安全や豊漁を願って始まったとされ、地元の八幡祭り保存会が継承。毎年3日連続で行われ、最終日の5日は神社に神輿を戻す「お帰し」がある。

(太田孝一)

**駆ける神輿 観衆圧倒 笠岡・真鍋島**



見物客が見守る中、勇壮に駆け抜ける「走り神輿」

過去の問題は  
 こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。